

## 「あいさつ」と人権

石 田 龍 郎

ある20歳代の女性の話です。

彼女は、大学の中から、ある有名なコーヒーショップでアルバイトをしています。  
大切なお客様には、思いっきりの笑顔で、丁寧に「あいさつ」をしてきました。

「いらっしゃいませ。」「おはようございまーす。」「ありがとうございました。」等々。  
毎日毎日、思いっきりの笑顔でお客様に「あいさつ」してきましたが、残念ながら「あいさつ」を返してくれる人は、ほとんどないとのこと。

でも、仕事の一環ですから、繰り返し繰り返し、思いっきりの笑顔での「あいさつ」を心がけたそうです。

このときの彼女とお客様の関係は、アルバイトの店員と客であり、いわゆる上下関係で考えると、  
客が上で、店員の彼女が下かも知れません。

でも、そんなことは当たり前と思い、彼女は何の疑問も持たずに、お店では、思いっきりの笑顔で「あいさつ」を続けてきたそうです。

その彼女が、今度は、ある小学校で、ボランティア活動を始めました。

ある日、参観日があり、駐輪場の担当になった彼女は朝早くから、来校する多くの保護者や地域の一人一人に、コーヒーショップのアルバイトと同じように、思いっきりの笑顔で、「おはようございまーす。」と「あいさつ」をしました。

すると、どうでしょう！100%の人が、笑顔で、「おはようございまーす！」と返してくれたそうです。

何ということでしょう！ 彼女はとっても感動しました。

このときの彼女と保護者・地域の方々との関係は上下関係も利害関係も何もありません。

彼女は、とっても嬉しくなりました。そして改めて「学校」というところの素晴らしさというものを再認識し、小学校の教師になることを心に決めたそうです。

何げない「あいさつ」が人を感動させる。そして、人を変える『力』があるのです。

「あいさつ」って、素晴らしいと思いませんか？  
そして、何よりも「あいさつ」できる人って、素晴らしいですね。

でも、この学校の保護者や地域の人も、ある時はコーヒーショップの客であるかも知れません。

同じ人間が、場所や立場で、「あいさつ」をしたりしなかったりするの、何故でしょう？

「学校」は、「学び」の場であります。「学校」は、素晴らしいところです。  
その学校の中で、「あいさつ」がなくなったら、どうなるでしょう。

「あいさつ」は、コミュニケーションの基本です。  
また、「あいさつ」は相手の存在（人権）を認めて、初めて行うものです。

「学校」という場だけではなく、どんな場でも、どんな相手にでも、思いっきりの笑顔で、「あいさつ」できたら、もっともっと素晴らしい社会になると思うのですが。

そこで、今年の人権月間の目標は、

**『思いっきりの笑顔で、「あいさつ」をしよう！』**

にしたいと思います。